

# 令和 7年度予算見積調書(2月補正予算)

課室名: 生産振興課  
 担当名: 花き・果樹・特産・水産担当  
 内線: 4146 (単位: 千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業		
P39	狭山茶DX推進研究事業			一般会計	農林水産業費	蚕糸特産及び	蚕糸特産研究費	茶業研究所費		
事業期間	令和4年度～ 令和8年度	根拠 法令	なし			針路 分野施策	12 儲かる農林業の推進 1202 強みを生かした収益力のある農業の確立	SDGsゴール 9	SDGsターゲット 9-4	
<b>1 事業概要</b> 茶園の集積により経営の大規模化が進む一方、茶園の多くは散在しており、生育や病害虫の発生状況の確認が、茶業者の大きな負担となっている。 また、ICT技術が飛躍的に進む一方で、茶生産への導入は進んでいない。 このため、生育管理データ等の収集や解析にICTを活用し、新たな茶生産の実現に向けた試験研究を実施する。  ア 推進事業 △ 25千円 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 △ 2,516千円				<b>5 事業説明</b> (1) 事業内容 ア 推進事業 44千円 狭山茶DX推進会議において、茶業者等と意見交換や技術の効果検証を行う。 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 8,054千円 ICTを活用した茶生産の実現に向け、試験研究を実施する。 (2) 事業計画 ア 推進事業 ICT活用環境整備 推進会議の実施 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 凍霜害回避 分析データに基づく凍霜害回避の研究 害虫発生予察 画像・環境データの分析による発生予察の研究 防霜ファンの遠隔操作 活用効果の実証による実用性の検討 (3) 事業効果 ほ場環境データ等のモニタリング及び分析データ利用による茶栽培管理が定着し、作業の適正化・効率化により、高品質かつ効率生産の大規模経営が実現する。 自園・自製・自販による付加価値の高い茶を生産する茶業者においては、データに基づく細やかな栽培管理により、更に味や品質にこだわった商品を製造することが可能になる。 【活動指標(アウトプット)】・推進会議の実施(1回) ・気象データ収集解析(35か所) ・実証モデル活用推進(190人)・防霜ファンの実用性評価(1事例)□ 【成果指標(アウトカム)】・狭山茶DXアカウントの登録者 190人 ・霜害減少率25% ・発生予察情報に基づく適期防除による収量増800kg(見込) (4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携状況 茶業者団体、メーカー、産地市町等と連携を進める。 (5) 補正予算の概要 経費節減による減額 受託収入減額による減額						
<b>2 事業主体及び負担区分</b> (県10/10)										
<b>3 地方財政措置の状況</b> なし										
<b>4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員</b> 9,500千円×4人=38,000千円										
予算額		財 源 内 訳							一般財源	補正後の 予算額
		諸収入								
決定額	△2,541	△1,500						△1,041	5,557	
現計額	8,098	1,500						6,598		

## 事業内訳書

事業名	狭山茶DX推進研究事業		
単位事業名	推進事業	予算額	△ 25千円

○歳入 (単位：千円)

款・節	補正予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	△25	—	
合計	△25	—	

○歳出 (単位：千円)

節	補正予算額	対前年度増減額	主な内容
旅費	△25	—	経費節減による旅費の減
合計	△25	—	

単位事業名	狭山茶産地におけるICT活用実証試験		予算額	△ 2,516千円
-------	--------------------	--	-----	-----------

○歳入 (単位：千円)

款・節	補正予算額	対前年度増減額	主な内容
諸収入・	△1,500	—	受託収入減による減額
一般財源	△1,016	—	
合計	△2,516	—	

単位事業名	狭山茶産地におけるICT活用実証試験	予算額	△ 2,516千円
-------	--------------------	-----	-----------

○歳出

(単位：千円)

節	補正予算額	対前年度増減額	主な内容
旅費	△162	—	受託収入の減、経費節減による旅費の減
需用費	△2,318	—	受託収入の減、経費節減による消耗品費等の減
役務費	△36	—	経費節減による通信運搬費の減
合計	△2,516	—	